

半切四分の一に書くⅡ (3)

締切り 三月二十五日 (必着)



神谷 葵水 先生 書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことです、その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×十七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 陽春布徳澤

〔大意〕 春の光を浴びて万物が生育すること。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤濁も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べることが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に取めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×十七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フェルトペン・筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

文

章

法

言

葉

理

題

り(ことわり)

あらわ(れる)

最終画

◎行書では、楷書よりスピードを上げてのびやかな線質を心掛けましょう。気脈も大切に。なお筆順も、楷書とは異なる場合がありますので、よく理解してリズムよく書いて下さい。

文章の法は
言葉をつづめて
理の顯るるを本とす

奥村暢之 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

立

派

風

采

推

薦

状

	推	立
	薦	派
英	状	な
国	で	風
の	あ	采
の	る	は
諺		

大谷清城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆4月課題予告(楷書)
哲学は元来
批判の学であり
疑いを発端に持つ

★文章の…(書体Ⅱ行書)
世阿弥(一三六三〜一四四三)
室町時代の能楽師
文章は、言葉を簡潔にして意味が
はつきりするように書くことが大切で
す。
明治・大正時代の詩人で随筆家の
薄田泣菫も「長い文章なら、どんな
下手でも書くことが出来る」と言っ
ており、最も簡単で最もおもしろい文章
を書くことが、最も難しいと言ってい
ます。

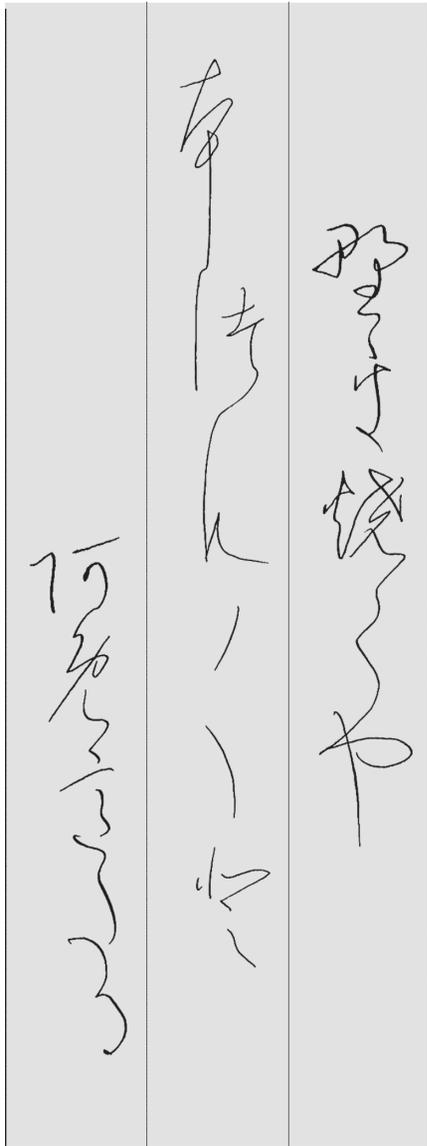
★立派な…(書体Ⅱ楷書)
イギリスの諺
立派な容姿、容貌をしていると、推
薦状をもらって人柄を保証されたよう
に、人との交際に役立つものである、
という意味です。立派な容姿は得をす
る場合が多いですが、内面的に充実し
ていないと逆に容姿・容貌が色あせて
しまうものです。外見も大切ですが、
内面も同様にありたいものです。

◆4月課題予告(行書)
楽観は
自分だけで無く
他人も明るくする

準初段から六段まで

新入から1級まで

野を焼くやぼつんくと雨到る
平本徒登阿免意多



田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

野を焼くやぼつんくと雨到る
本川州あめ以多



田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

野を焼くやぼつんくと雨到る

(村上鬼城)

【句解】野焼きが行われているが、低く垂れた曇り空からは、とうとうこらえかねたように、大粒の雨がそのまだくすぶっている黒い焼け野の上にぼつんぼつんと落ち始めた。

【鑑賞】写生の手法によった句で、一見平凡に見られがちであるが、へぼつんくと雨到るの表現には、春先の荒々しい雨が降り始め、それが焼き払ったばかりの黒い野の大地を打つ感触が実にいきいきと把握されている。

【古筆参考】

乎字ありり
 川州川つつ
 登と
 免め
 多た
 春風や鬨志いだきて丘に立つ

【解説】「あめ」の中心は、「あめ」。

◆4月課題予告

春風や鬨志いだきて丘に立つ

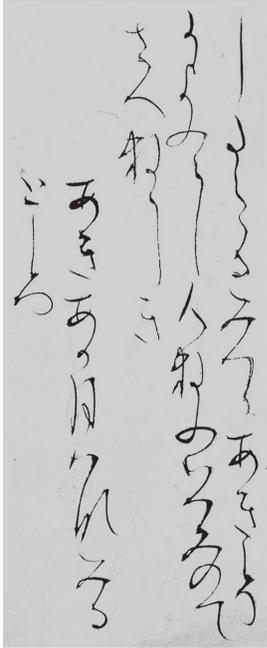
(高浜虚子)

締切り 三月二十五日(必着)

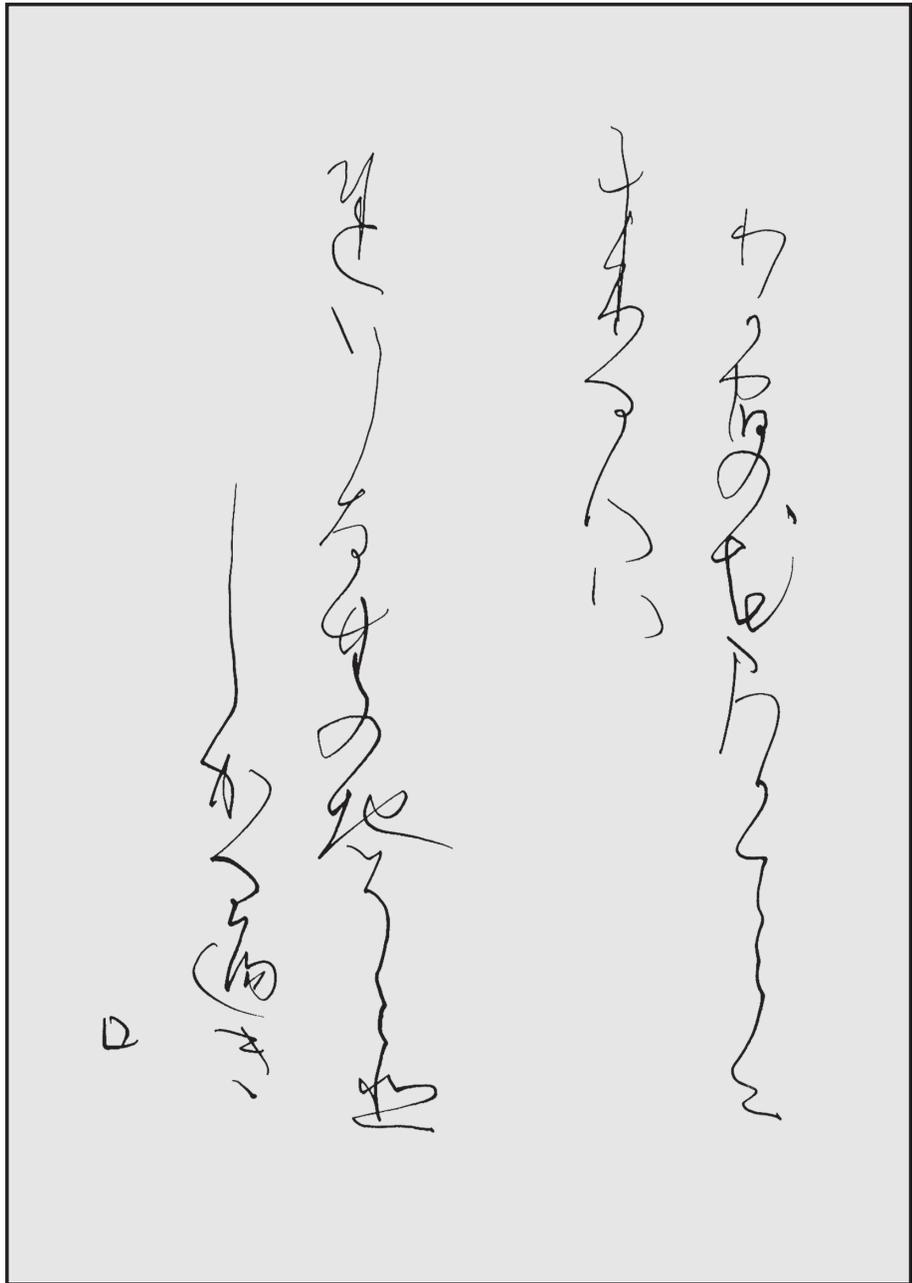
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

なかつかさしゅう
中務集



したくゝるみづにあきこそ
かよふらしむすぶいづみので
さへすゞしき
あき、あか月はなみる
ところ



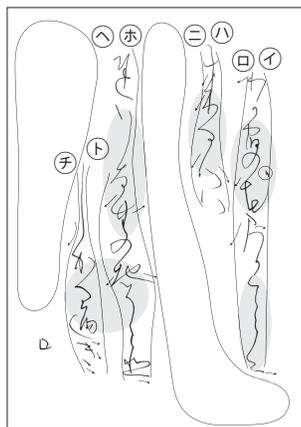
わがやどの花見がてらに來る人は
散りなむのちぞ恋しかるべき

〔歌意〕わが家の花を見るついでに、訪ねてくれるようなあなたです。散ってしまったその後は、もう来てはくれません。そういうふうになった時、あなたをなつかしく思うことでしょう。

〔出典〕古今和歌集

(新潮日本古典集成)

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、それぞれ呼応。
- 余白大切。
- 密の部分大切。
- の動きが面構成を決める。
- の方向(指向性)で面がまとまる。

◆4月課題予告

夏の夜はまだよひながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ

締切り 3月25日(必着)

三寒四温の候となり、冬が行きつ戻りつしておりますが、私どもはお陰で大過なく暮らしております。そこで環境に恵まれた今こそ教範試験に挑戦しようと思惟いたしました。ご助言をよろしくお願い申し上げます。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

三寒四温の候となり、冬が行きつ戻りつしておりますが、私どもはお陰で大過なく暮らしております。そこで環境に恵まれた今こそ教範試験に挑戦しようと思惟いたしました。ご助言をよろしくお願い申し上げます。

横 書 き 課 題

上野公園にある西郷隆盛の銅像は
高村光太郎の父光雲の作である。

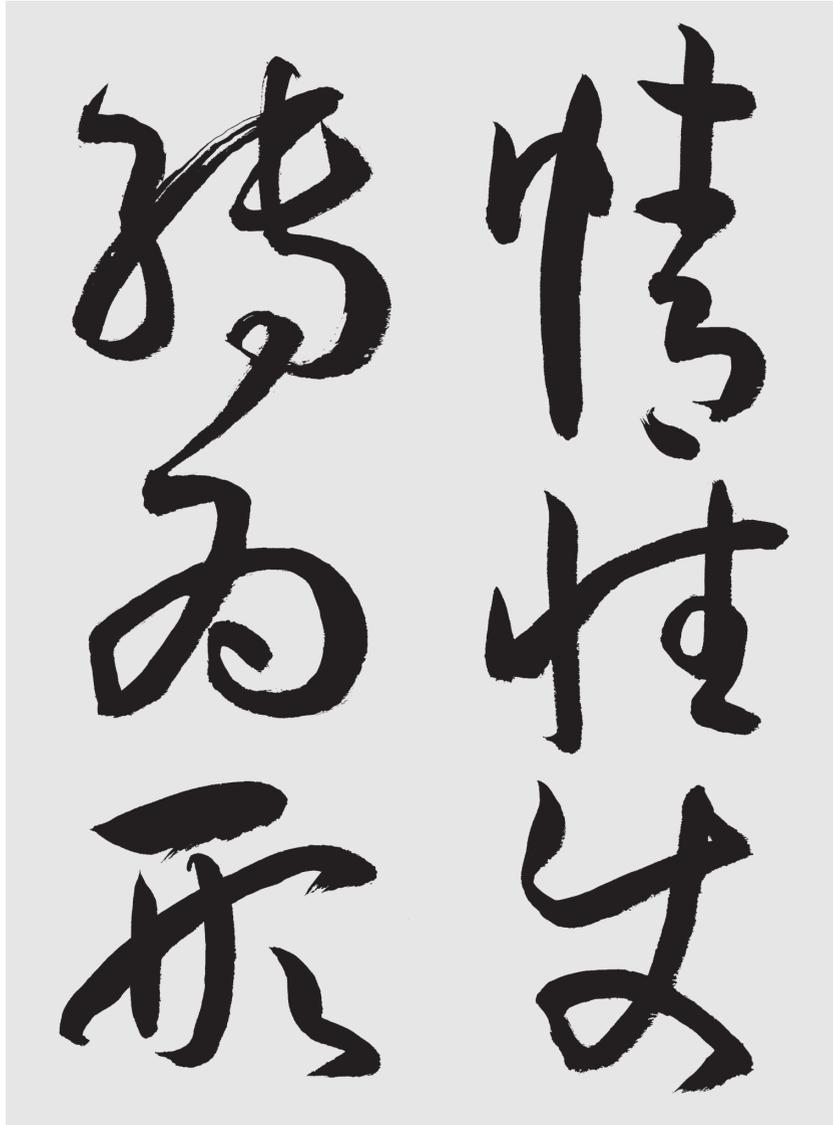
北海道小樽市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 3月25日(必着)

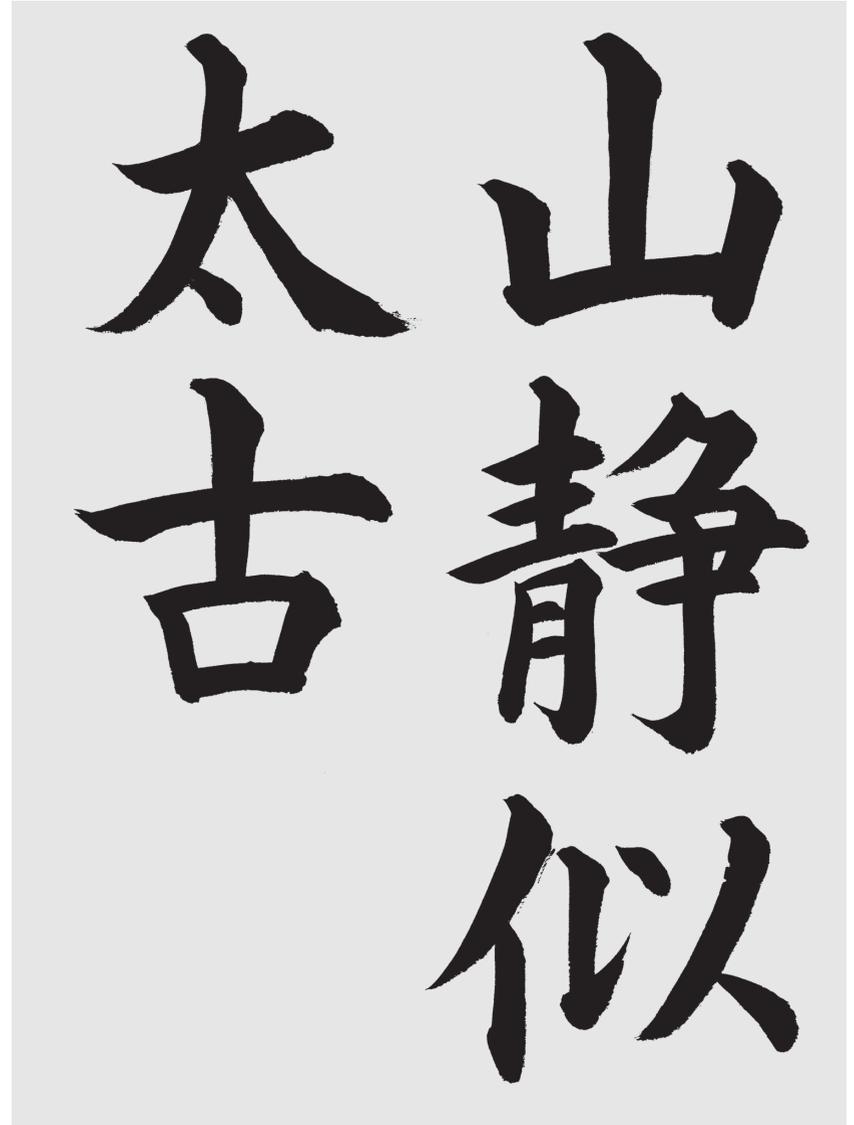
情
性
使
轉
爲
形



準初段から師範まで

神谷葵水先生臨

〔出典〕書譜(687) 〔筆者〕孫過庭(648?~703?)
〔読み〕情性と(爲し、)使轉を形(質と)爲す。



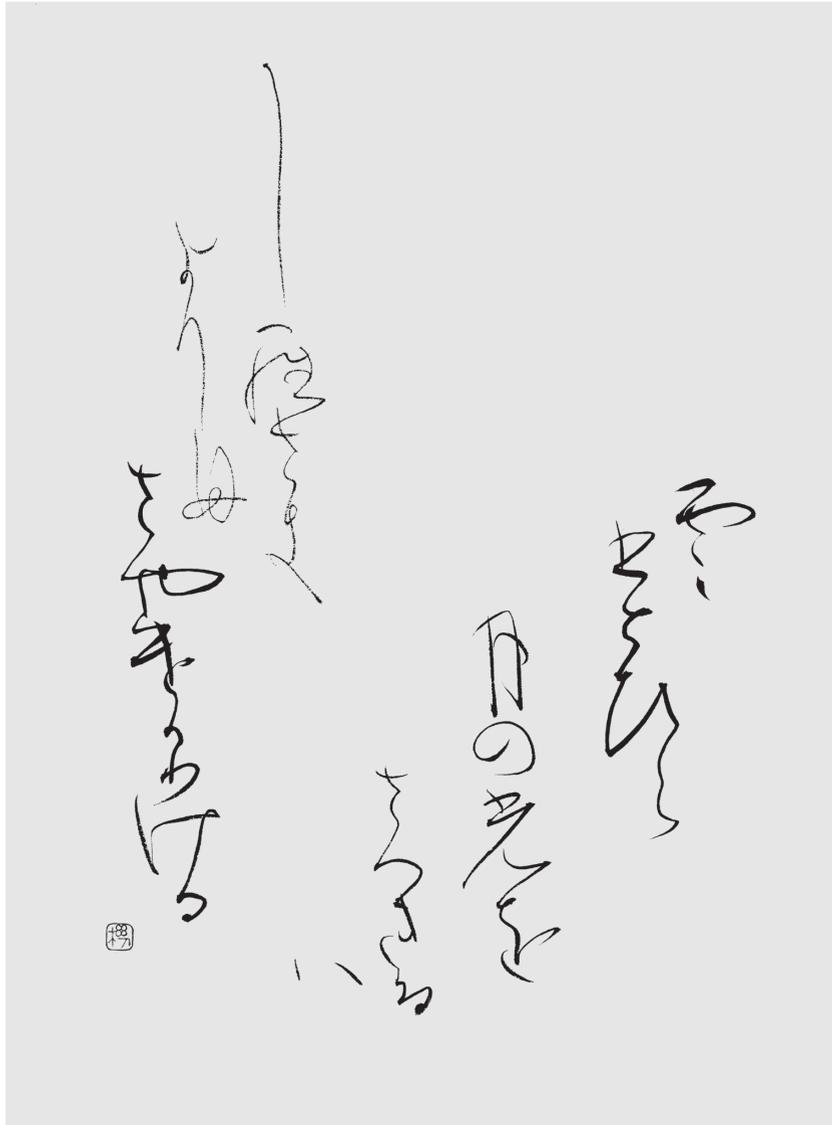
新入から1級まで(楷書)

須田一葉書

〔読み〕山静かにして太古に似たり。
〔大意〕山は太古の昔から変わらぬ、ゆったりと静かな時が流れている。

一般部毛筆かな課題

締切り 3月25日(必着)



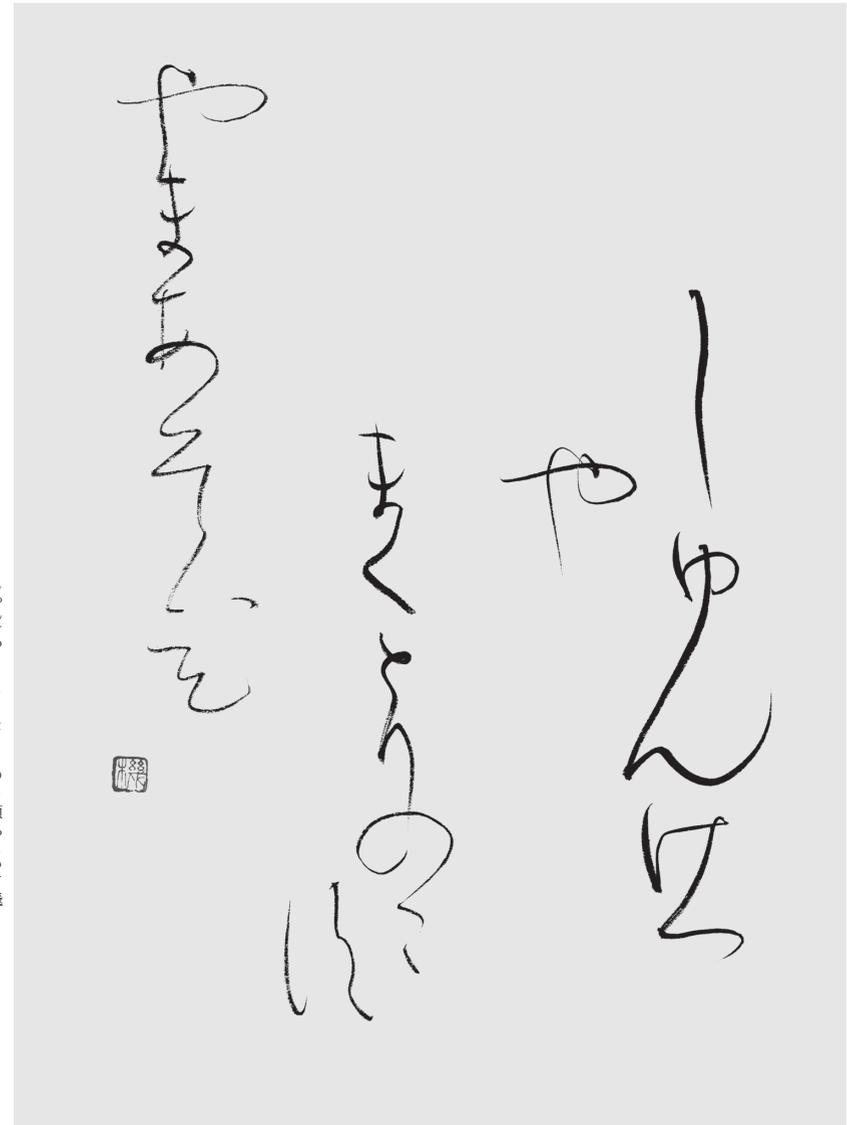
雲悲ひとひら月の光をさへぎるは
 白鷺母よりもさやかにけり

〔出典〕太田水穂

〔歌意〕一片の雲が月の光を遮るのを見ると、その雲は白鷺しらさぎよりもさわやかに見えることだ。

準初段から師範まで

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



新入から1級まで

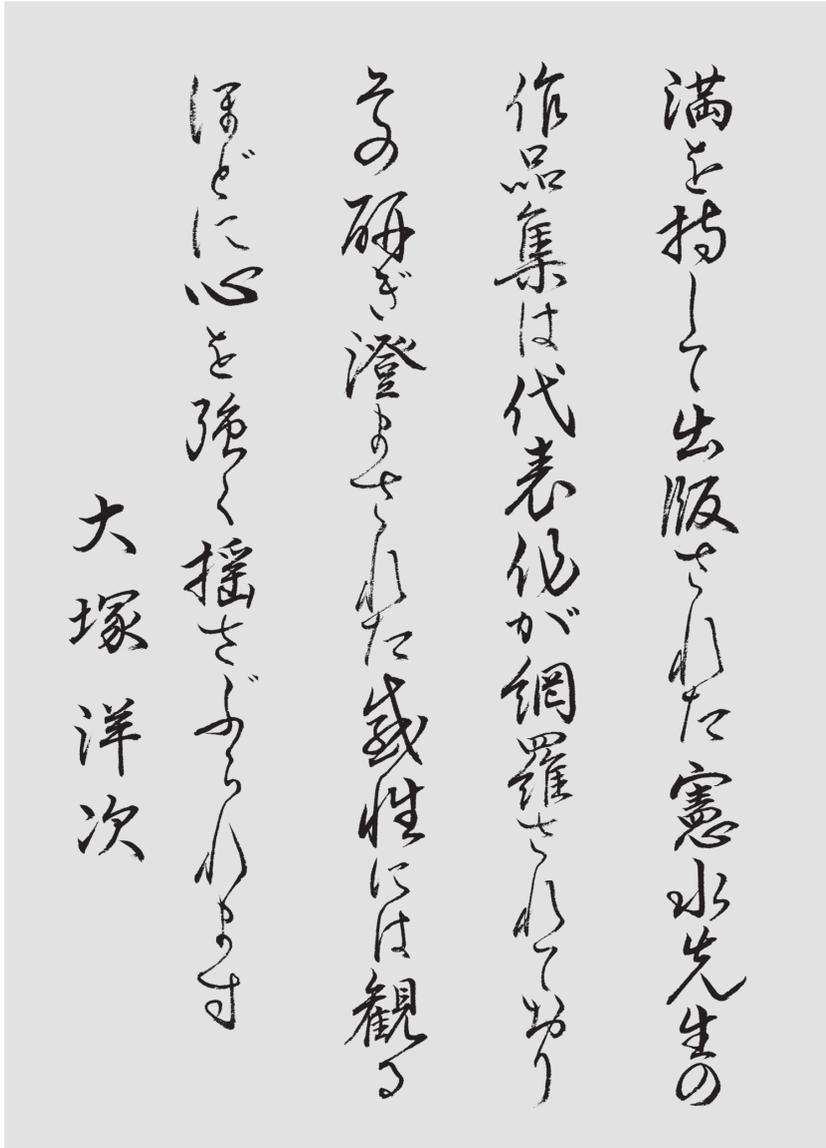
浅井あさ機いき山さん先生書

〔出典〕大須賀乙字

〔句意〕山遊びの人々が帰った後には、木の枝にかけた幕だけが残されており、その上に春の月が照っているの意。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 三月二十五日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)

荻田蒼仙書

半紙 (334mm × 240mm)

書 香 梅 藤 伊

- 印で墨つぎしました。
- 〔条幅・細字作品の出し方〕
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

満を持して出版された憲水先生の作品集は代表作が網羅されておりその研ぎ澄まされた感性には観るほどに心を強く揺さぶられます

(ご自分の氏名)

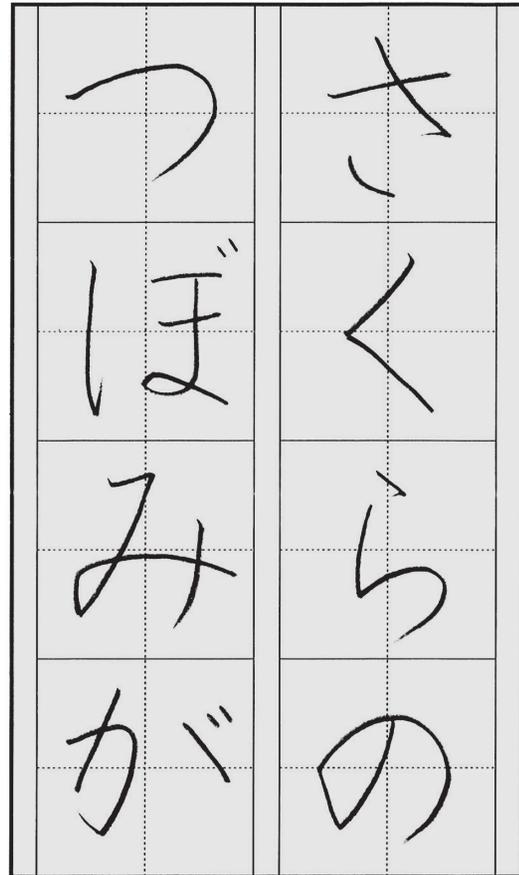
〔条幅解説〕書道は線、その線はとにかく鋒を立て書くこと。そこが習字と違うところ。引き摺り書くのと違うところ。上達に必要な書きぶりをみるのも、ここにあります。

杜宇青山三月暮
桃花流水一溪雲

〔大意〕大きな落葉樹も春先になれば青く色づき、溪谷には桃花が咲き、空には雲も見えるのどかな風景。

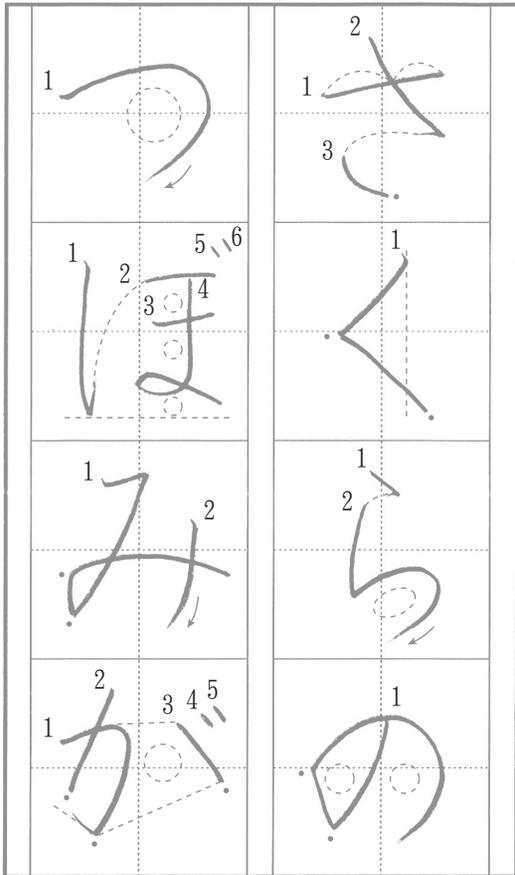
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

よ
う
年



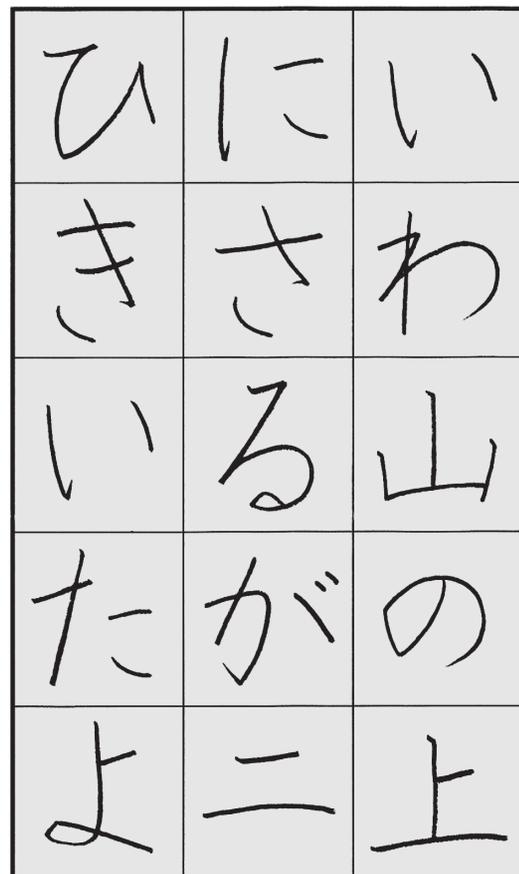
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

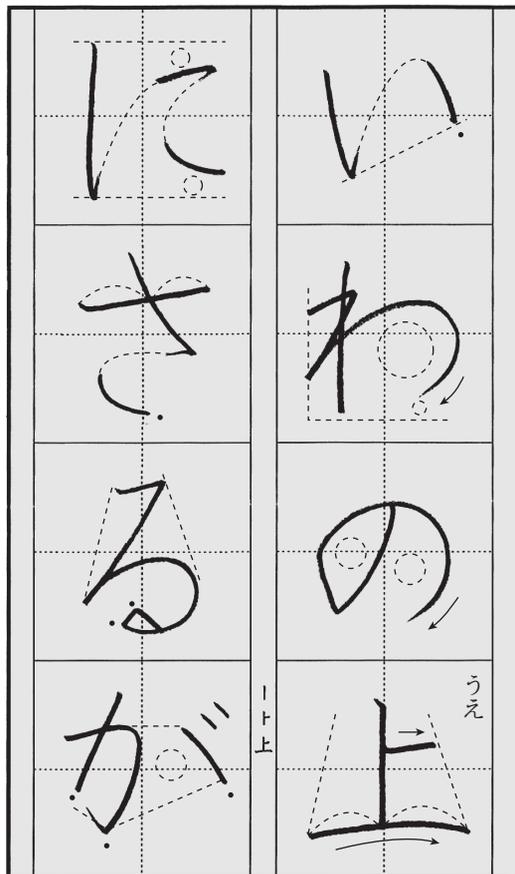
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準
初
段
以
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

小二年

ん	手	兄
車	道	さ
で	を	ん
走	自	と
る	て	土

準初段以上

※兄さん＝単語としてこのように読みます。

新入～1級

小三年

風	な	外
と	春	は
太	の	軽
陽	そ	やか
が	よ	か

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入～1級

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

一 十 土	土	兄
一 二 手	手	さ
十 五 走	走	ん
	る	と

	の	軽
	そ	やか
	よ	か
八 門 風	風	春

〈用具 自由(黒色に限る)〉

水	清
流	ら
れ	か
る	な

みず 清 なが 新入1級

川	ど	清
を	け	ら
流	水	か
れ	が	な
る	小	雪

小四年 準初段以上

小四年以上 岡嶋桂川書

料	節
理	句
赤	祭
飯	祝

リヨウ セツ 節 句 まつり いわい 解説(よく見て習いましょう)

理	祭	節
で	り	句
お	祝	の
赤	い	ひ
飯	料	な

小五年 (全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小六年

真	つ	卒
に	た	業
収	姿	証
め	を	書
る	写	持

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

持	卒
姿	業
写	証
真	書

〈用具〉自由(黒色に限る)

中一年

目	地	柔
差	良	ら
し	い	か
と	春	く
風	の	心

(行書)

※心地||単語としてこのように読みます。

中二・三年

(行書)

が	に	田
必	は	舎
需	自	の
品	動	生
だ	車	活

※田舎||単語としてこのように読みます。

▼小三年以下の課題 さか酒 い井 けい桂 げつ月 書

わ	歩 ^ほ	お	手 ^て	左 ^さ
た	道 ^{どう}	う	を	右 ^{ゆう}
り	を	だ	上 ^あ	見 ^み
ま		ん	げ	て
す			て	か
				ら

◎お手本はえんぴつ使用



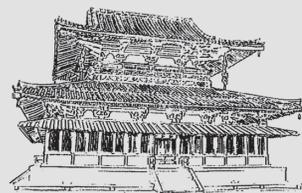
しめきり 3月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 はやし林 すい翠 ふう風 書

木 ^{もく}	建 ^{こん}	奈 ^な	七 ^{なな}	法 ^{ほう}
造 ^{ぞう}	立 ^{りゅう}	良 ^ら	世 ^{せい}	隆 ^{りゅう}
の	さ	に	紀 ^き	寺 ^じ
お	れ		の	は
寺 ^{てら}	た		初 ^{はじ}	
で			め	
す				

※建立^{こんりゅう} || 単語^{たんご}としてこのように読みます。



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

上手

小三

み

幼年〜小二年
水野碧友書

み

上手

小一

上

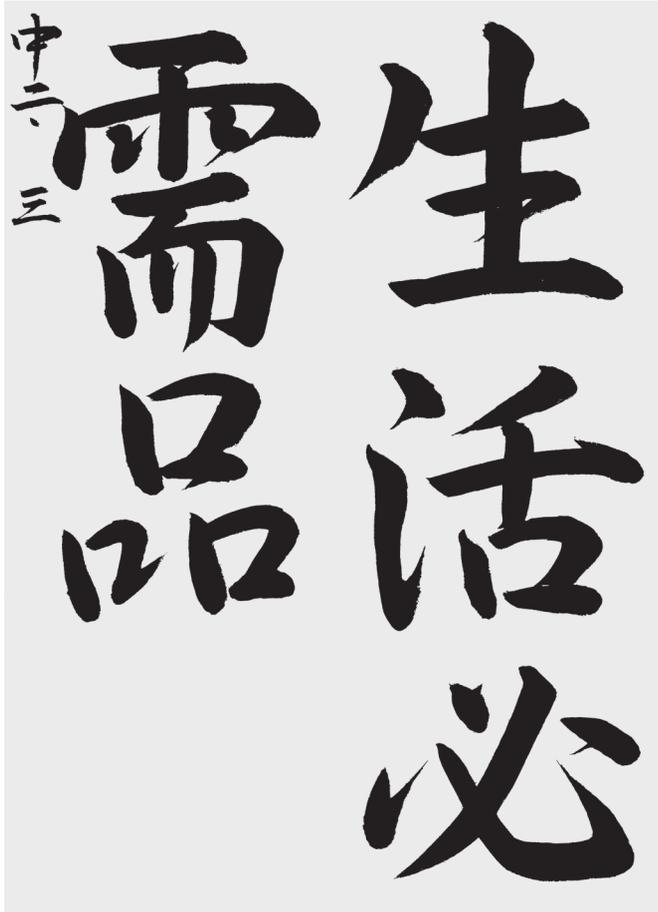
小五
料祝
理い

風そ
小三
よ

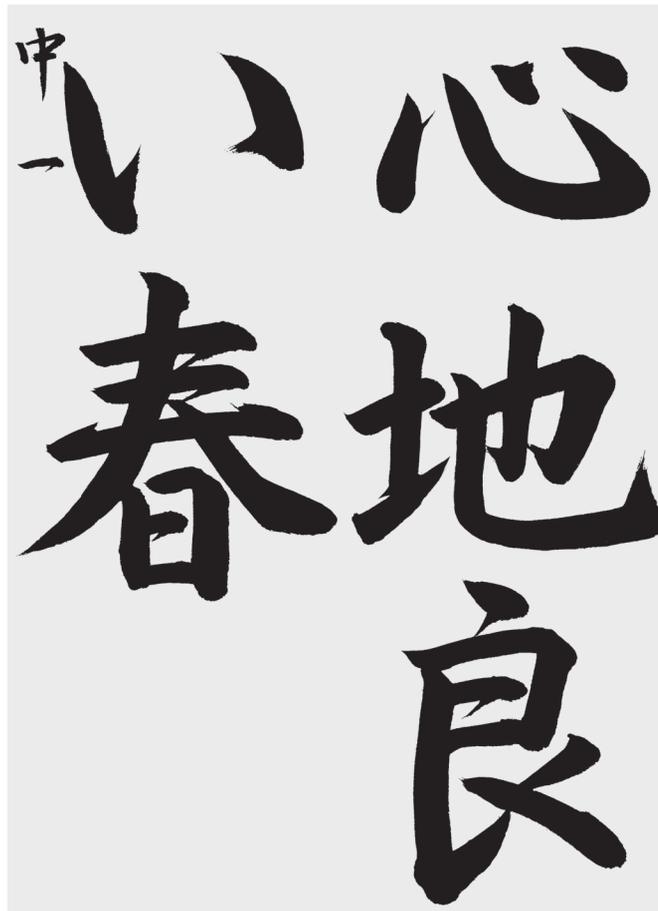
流
祝
理
そ
風
水

小四
れ水
る流

小三、小五年
たまきしょうか
樹小華書



小六(中二・三年) 水野香竹書



◎気脈を大切にしよう